

## 2023.8.30 第8回霊的講話 「イエス様に出会った女性①」

皆さん、おはようございます。

始業式でもお話をしましたが、本当に暑い8月、しかもその間には豪雨にも見舞われた8月が過ぎようとしています。まだまだ暑さは厳しいですが、それでも、朝夕には虫の音が聞こえ、少しずつ秋が近づいていることも感じる今日この頃です。

さて、この二学期には計6回の霊的講話が予定されています。そして、この6回は「イエス様に出会った女性」というテーマでお話をしたいと思います。

皆さんの中には、聖書に登場する主な人物はほとんどが男性で、聖書では女性はあまり重視もされていないのでは、と思っている人もいるかもしれません。しかし、聖書の中には数多くの素晴らしい女性が登場します。また、これらの女性の言葉や行動、あるいはこれらの女性についてのイエス様の言葉には、私たちが学ぶべきことがたくさん含まれています。

さて、新約聖書で紹介されている女性の中で代表的な方は、もちろん、イエス様の母となられたマリア様ですが、このマリア様については宗教の時間やクリスマス会などでよくお話を聞いていると思います。この霊的講話の時間では、皆さんが今まであまり聞いたことがないと思われる女性を紹介したいと思います。

今回と次回の話には「マリア」という名前の女性が登場します。当時のユダヤでは「マリア」という名前は割とありふれた名前ですが、新約聖書にも「マリア」という名前の女性は何人も登場します。今回は、ベタニアという村に住んでいた「ベタニアのマリア」と呼ばれた女性を紹介します。

では、ルカによる福音書 10章 38節から 42節を御一緒に読みましょう。皆さんの新約聖書の127ページ、上の段の左になります。

「一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。『主（主とはイエス様のことですね）よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。』主はお答えになった。『マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。』」

イエス様とその弟子たちの一行がお入りになった村はベタニアという村で、ユダヤの都であるエルサレムの近くにありました。この村には、マルタとマリアという姉妹そしてラザロという弟の3人姉弟がいました。この3姉弟は以前からイエス様と親しくされていたので、

イエス様がベタニアの村に来られた時、姉のマルタはさっそく自分の家にイエス様を迎え入れました。そしてマルタは、一生懸命、食事を作ったり、一行が宿泊される準備をしたりしていたのでしょう。しかし、妹のマリアは姉のマルタとは違っていました。マリアは、食事の準備や給仕などもしないで、ただイエス様の足もとに座り、イエス様がされる話に耳を傾け、その言葉について考えを深めていたようです。

実は、当時のユダヤの社会では、このようなマリアの態度は非難される可能性がありました。当時は、お客と食事をしながら話ができるのは主に男性で、女性はその周りで食事の準備や給仕のために立ち働くのが普通でした。マリアのように、男性に給仕することもしないで、ただイエス様の足もとに座って話を聞こうとする態度は、周囲の男性から批判される恐れがありました。

また、姉のマルタもマリアの態度が不満でした。しかも、マルタは、その不満を、マリア本人ではなく、イエス様に向けてしまったのです。「私だけが忙しくしているこの状態をイエス様は何とも思わないのですか？ マリアが給仕の働きをするようにイエス様の方から注意してください！」もし私がイエス様であれば、「そんなこと、自分で妹に言えよ！」と怒っていたかもしれません。しかし、イエス様は穏やかに「マルタ、マルタ」と話しかけられます。「あなたは多くのことをやり遂げようと心を乱しています。しかし、本当に必要なことは一つだけです。」

イエス様が言われた、この「必要なことは一つだけ」というのは、「この一つが大事で、他はいらない、どうでもよい」という意味ではなく、「まず、このことがすべての事の土台であり、中心である。」という意味であると私は思います。

そしてイエス様は続けます。「マリアはその良いものを選んだのです。」

では、イエス様が言われた「ただ一つの必要なこと」そしてマリアが選んだ良いものとは何だったのでしょうか。それは、イエス様のもとにきて、直接、イエス様の言葉に耳を傾けるということです。

なぜマリアは、姉のマルタやその場にいる男性から非難されることも覚悟で、あえてイエス様のもとに留まり、その言葉を聞きたいと思ったのでしょうか。それは、これまでもマリアはイエス様の言葉を聞いたことがあり、また、イエス様が御自分の権威ある言葉によって、父なる神様の御心そして神様の愛や慈しみを実にリアルに、力強く教えておられるのを知っていたからだと思います。また、マリアは、イエス様がその言葉によって病人を癒し、人々を教え、慰め、解放されているのを知っていたのです。ですから、マリアは、自分自身でイエス様の言葉を聞きたい、宗教の戒律でも道德の教えではなく、神様について知りた、神様と人間についての真理を知りたいと願っていたのだと私は思います。私は、このマリアの姿勢はとても大切だと思います。現在、様々な人が、自分の意見や感想あるいは偏見

に満ちた先入観を交えながら聖書やイエス・キリスト、あるいはキリスト教について語っています。そして多くの人が、そのような本を読み、話を聞いて、聖書やイエス・キリストについて理解できたかのような錯覚をもっています。でも、宗教やキリスト教について語る人は多いのですが、イエス・キリストの言葉を、聖書を通して直接読み、あるいは聞いて、自分で理解して考えようとする人は少ないのではないのでしょうか。

生徒の皆さんは清心中学校・清心女子高等学校に入学され、中学2年以上の方は新約聖書を手にしておられます。中学1年の皆さんは旧約聖書・新約聖書の全巻を持っておられますね。もちろん、この学校に入学されたのは皆さんの意志であるとは思いますが、同時に、そこにも神様の御計画はあったのだと私は信じています。聖書が身近にあるというこの機会を大事にして、まずは新約聖書の福音書から、少しずつでも結構ですから、直接聖書の言葉に触れてみてください。皆さんが若い時に触れた聖書の言葉によって、私がそうであったように、やがて皆さんの人生は変わるかもしれません。

さて、イエス様の言葉に聞き入っていたベタニアのマリアは、この後、イエス様の弟子たちでさえも誰一人知らないこと、気付かないことを悟り、大切なことを行います。そのことについては、次の霊的講話で一緒にお読みしたいと思います。

それでは、最後に主の祈りを御一緒に祈りましょう。